

決算審査特別委員会

委員長 竹野光雄

平成26年度南相馬市一般会計歳入歳出決算認定について

質疑 平成26年度の一般会計決算において、全体の予算規模1千100億円のうち約483億円が繰越となった主な事業は。

答弁 農地除染事業で234・2億円、生活圏除染が84・2億円、仮置場設置管理事業が57・5億円の状態であり、用地交渉の難航や資材不足等である。今後事業の適切な進行管理に努めていきたい。

質疑 震災前より市税等の独自財源は減っており、今後も復興財源を精査しながら国県に求めていくべきだが。

答弁 平準化を図る取り組みをしている。平成26年度は4億円を積み立てた。今後も将来負担を重くしない措置が必要であり、計画的な財政運営を行っていく。

質疑 平成25年度に比べ

て、財政調整基金と東日本大震災復旧・復興基金の残高の増の要因は。

答弁 財政調整基金は、地方財政法の規定に基づき平成25年度の決算剰余金の1/2を積み立てることに

なっており、さらに国県からの財源の手当があり残高が増えたものである。

質疑 平成26年度の農地除染の進捗状況は、3月31日現在で水路が876km完了

57%の進捗、農地は818ha終了して16%の進捗、農道については未着手だが、遅れをどう分析しているのか伺う。

答弁 11月から3月までの天候不順により稼働率が低くなったことと、十分な数の作業員を確保できなかったことが要因と考える。

質疑 高齢者肺炎球菌ワクチン接種助成事業が、もとの事業の予算額から判断すると、半分程度の接種率にとどまったことについては。

答弁 収入未済額が809万

答弁 昨年の10月から、全ての市町村が取り組む定期接種に変更された経過がある。接種率アップのため

に、対象者の方にはハガキで案内したが、接種率が伸びなかった。今後も引き続き勧奨に努めていきたい。

質疑 環状1号線の事業が、市民生活にどう効果があるのか伺う。

答弁 開通したのは27年度だが、近隣の病院へのアクセスがよくなったこと、二見町地内の狭隘な道路を

通らなくても自宅に入れる等、整備効果は上がっていると判断している。

質疑 特色ある学校づくり事業補助金について。児童・生徒の「生きる力」を

育むとうたっているが、どう対応したのか伺う。

答弁 この事業においては、学力の育成に重点を置き、

平成26年度は、秋田市やつくば市等、先進的取り組み自治体に赴き、研修した。

平成26年度南相馬市育英資金貸付特別会計歳入歳出決算認定について

質疑 収入未済額が809万

円ほど発生しているが、内訳と未済の理由は。

答弁 現年度分が約160万円、過年度分が約650万円、22名となっている。理由は、現下の厳しい経済状況で、卒業しても正規雇用として就職できない等と推測している。

平成26年度南相馬市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定について

質疑 浦尻・村上・小高北部・小高西部簡易水道の放射性物質濃度の検査結果については。また、浦尻・村上簡易水道の今後の復旧の考え方について伺う。

答弁 検査結果は、小高北部・小高西部簡易水道のいずれもNDとなっている。また、浦尻・村上簡易水道は津波により滅失しており、

今後の土地利用の観点から復旧は難しいと考えている。

平成26年度南相馬市病院事業会計決算認定について

質疑 約4億8千700万円の当年度純損失が計上された要因と、今後の病院経営の考えについて伺う。

答弁 純損失の発生は、

給与費で18億円の増、医療外費用の雑損失の控除対象外消費税で19億円の増、企業会計制度の改正による賞与引当金で09億円の増、さらに小高病院で48億円の損失を計上したことが主なものである。また今後収益の改善には、入院患者の増加を図るのは第一であると考えている。そのほかにも、ジェネリック医薬品の切り替えによる入院基本加算料の適用を受け、少しでも収入を確保していきたい。

討論 本案は不認定とすべき意見がりましたが、採決の結果、賛成多数で認定すべきと決しました。



開院待たれる脳卒中センター

総務常任委員会

委員長 小川尚一

平成27年度南相馬市一般会計補正予算について

質疑 南相馬市制10周年記念式典事業について、今回は参加者分という理解でよいのか。

答弁 市民全体でお祝いするという趣旨だが、今回補正計上したものは、出席者への記念品である。扇子400本と手提げ袋400枚は来賓の方々へ、クリアファイル1千200枚は、当日来られた一般市民の方々を含めて渡す。



南相馬市制10周年記念ロゴマーク

質疑 選挙管理委員会一般経費について。南相馬市では18・19歳の選挙人は、何人ぐらいを想定しているか。

答弁 12月2日に、定時登録をしたが、その時を18歳と仮定した場合、1千149人が増加する予定である。

質疑 防災備蓄倉庫整備事業。何カ所で、何人分を予定しているのか。

答弁 今回、原町区の1カ所については、避難者9千人と想定し、食料等については、概ね3日分を想定した内容である。

質疑 震災の経験から、備蓄をきめ細かく行なう必要があるのではないのか。

答弁 備蓄物の食料品については、水が1番重要で、想定では500mlボトルで約16万2千本。これは、3日分で1日当たり3ℓと計算した。そのほか、高齢者から乳幼児ということで、哺乳瓶や、高齢者では、アルファ米のおかゆができるようなものを今後検討している。また、アレルギーを持っている方への対応など、踏

み込んだ検討もしていく。**質疑** 規模・面積は、概ねどの位で想定しているのか。また、具体的な場所は。

答弁 現在700㎡を想定しており、萱浜の県のオフサイトセンターの東側（敷地面積約9千㎡）にある市有地を考えている。

質疑 債務負担行為補正について。防犯カメラシステム設備借上料は、平成32年度までには、完了するという理解でよいのか。

答弁 防犯カメラシステムの借り上げについては、小高区16カ所、原町区3カ所の借り上げに対する債務負担で、平成32年度まで借り上げをするための設定をするものである。審査の結果、原案通り可決。

南相馬市真野交流センター
条例制定について

質疑 グラウンドの使用について。早朝練習や大会、年末年始もグラウンドが開放されているが、管理責任については。

答弁 申請者の意向を踏まえた中で、弾力的に時間

の使用については許可していききたい。何かあった場合の対応は、1年間は直営で管理するため区役所に連絡をいただく。さらに1年後は、指定管理制度の導入を考えており、指定管理者と連絡をしながら、時間外の対応や安全対策等も万全を期する考えである。審査の結果、原案通り可決。

工事請負契約の締結

質疑 サンキンB&G株式会社農芸施設事業部羽生事業所との契約について。プロポーザルで、結果的には申し出が1社しかなかったということである。野菜工場は11億円かかるが、施設完成後は市が管理運営関与していくのか。

答弁 技術指導も含めて今後とも関与していく。

質疑 新しい農業形態として規模も大きい。地元雇用も含めて、確実にこの事業は達成されるのか。

答弁 事業計画では、販路として、業務用農産物の大手、あるいは外食産業の大手に対して出荷する。具

体的には、卸大手の東京のデリカフーズ株式会社と、外食産業大手のすかいらーくグループで、市内ではガスト、市外ではバーミヤンなどがある。雇用は、パート従業員を25人から30人程度で、主に地元から採用する予定である。審査の結果、原案通り可決。

震災復興記念館（仮称）
建設に関する請願

請願者を参考人として招致して、請願内容について質疑し、答弁をいただいた。震災復興記念館（仮称）の建設であり、場所は20km圏内に限定するものではない。記念館を造ってほしいという説明であり、請願の趣旨をみても、後世に語り継いでいく内容である。委員からは今後、予算や維持管理費等も含めて精査する必要はあるが、趣旨採択すべきとの意見があり、「記」以下の部分を除く形の一部採択。